

## 子供の誤飲に対する関係者への啓発

### 1. 誤飲に対する母子健康手帳による保護者への啓発

#### 母子健康手帳

母子保健法（昭和四十年法律第 1 4 1 号）により、市町村は、妊娠の届出をした者に対して、母子健康手帳を交付しなければならないこととされており、同法施行規則（昭和 4 0 年厚生省令第 5 5 号）及び通知により様式が定められている。

(通知様式抜粋)

### 事故の予防

現在わが国では、幼児から小学生にかけて、子どもの死亡原因の第1位は不慮の事故になっています。事故の内容は年齢によって特徴がありますが、親の注意や子どもに対する安全のしつけによって防げるものが大部分です。発育過程の中で、いつ頃、どんな事故が起こりやすいか知っておくことは、事故の予防の上で大切です。

#### 月齢・年齢別で見る起こりやすい事故

月・年齢	起きやすい事故	事故の主な原因
新生児	周囲の不注意によるもの	☆誤って上から物を落とす ☆上の子が抱き上げてけがさせたり、物を食べさせる
1～6月	転落 やけど 誤飲・中毒 窒息	☆ベットなどから落ちる ☆ストーブにさわる ☆誤飲で多いもの、たばこ、医薬品、化粧品、洗剤等 ☆コイン、豆などの誤飲
7～12月	転落・転倒 やけど 溺水 誤飲・中毒 車中のけが	☆扉、階段、ベット ☆アイロン、魔法瓶やポットのお湯 ☆浴槽、洗濯機に落ちる(残し湯をしない) ☆引出しの中の薬、化粧品、コイン、豆など ☆座席から転落。(チャイルドシートで防止)
1～4歳	誤飲(中毒) 転落・転倒 やけど 溺水 交通事故	☆原因の範囲が広がる。あらゆるものが原因になる ☆階段、ベランダ(踏台になるものを置かない) ☆熱い鍋に触れる、テーブルクロスを引いて湯をこぼす ☆浴槽に落ちる、水あそび ☆飛び出し事故(手をつないで歩く)

※ 下記において、化学物質(たばこ、家庭用品など)、医薬品、動植物の毒などによって起こる急性の中毒について情報提供・相談が実施されています(異物誤飲(小石、ビー玉など)や食中毒、慢性の中毒や常用量での医薬品の副作用は受け付けていません)。

(財)日本中毒情報センター

- ・大阪中毒110番 TEL0990-50-2499  
(有料(ダイヤルQ2)24時間365日対応)
- ・つくば中毒110番 TEL0990-52-9899  
(有料(ダイヤルQ2)9時～17時365日対応)
- ・たばこ専用回線 TEL06-6875-5199  
(無料(テープによる情報提供)24時間365日対応)

## 2. 「母子保健事業のための事故防止指導マニュアル」について

家庭内における子供の事故防止については、「健やか親子21」（平成12年）、少子化社会対策基本法に基づく「少子化社会対策大綱」（平成16年6月4日閣議決定）に取り上げられている。

それらへの対応の一つとして、「母子保健事業のための事故防止指導マニュアル」（平成16年度厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業 子供の事故防止のための市町村活動マニュアルの開発に関する研究（主任研究者 田中哲朗国立保健医療科学院生涯保健部長））が作成され、保護者に対する事故防止の指導マニュアル、指導教材等として活用されている。

### 〔指導教材の内容〕

- ・ 事故防止の必要性
  - ・ 子どもの発達と事故例
  - ・ 安全チェックリスト
  - ・ 事故防止のポイント
  - ・ 応急手当
- 等

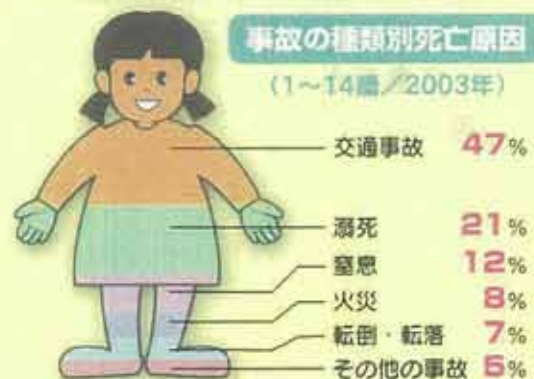
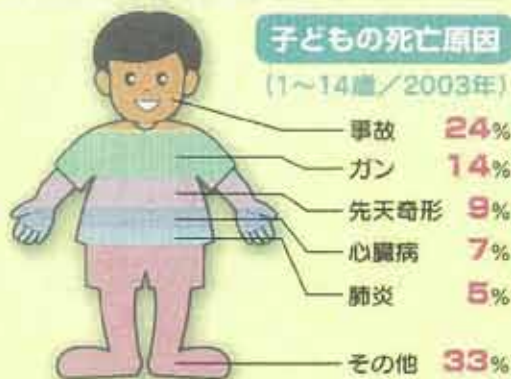


1年間に0歳では4人に1人、1～4歳では3人に1人がお医者さんを受診するような事故にあい、痛い思いをしています。



1人の死亡事故があるとその背景には65人の子どもの入院があり、5850人が病院を受診するような事故にあっています。

事故により命を失ってしまう子どもは、病気のガンよりも多いのです。



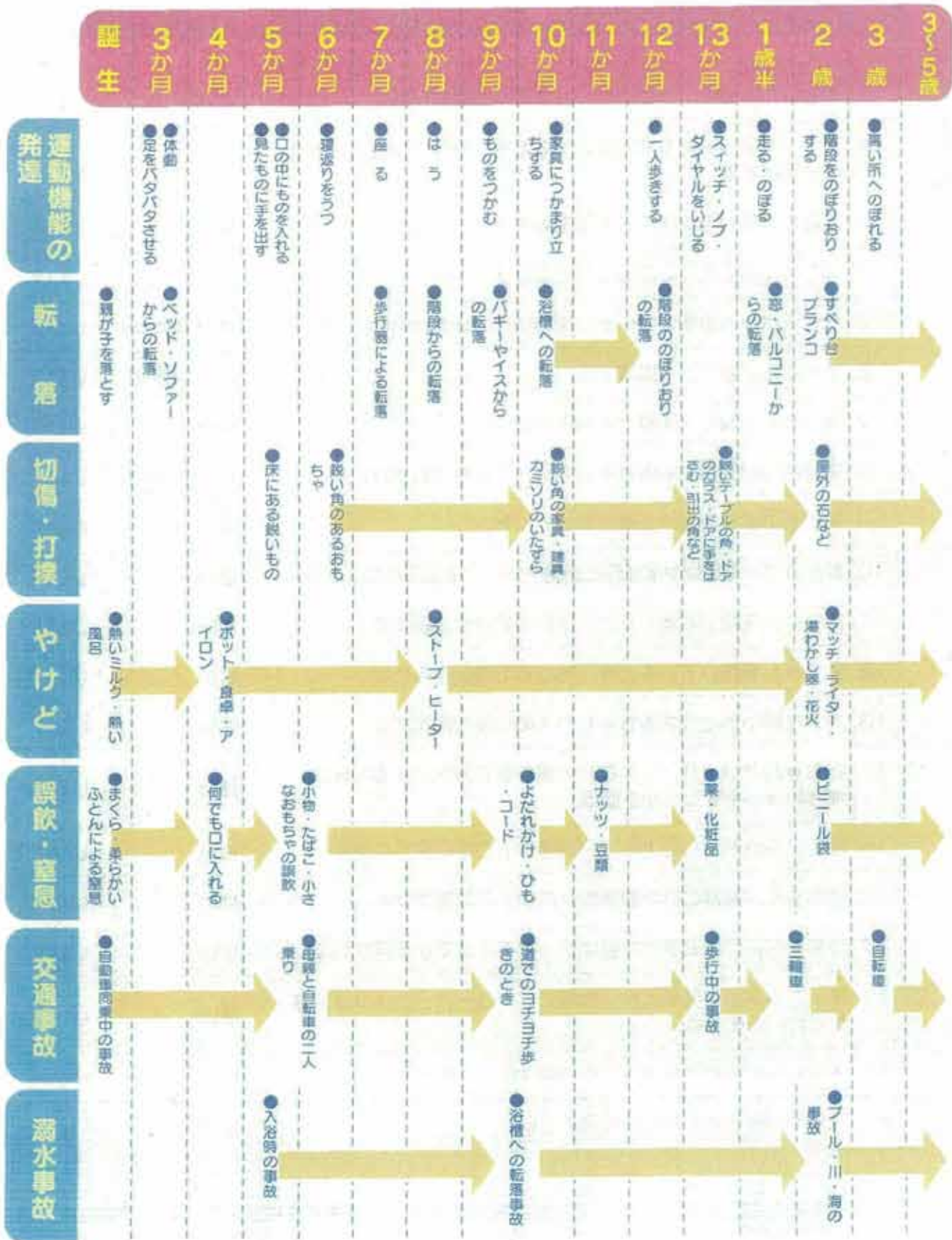
事故の経験をしてしまった保護者の80%以上が、「少しの気配りをするだけで、事故を防ぐことができた」とアンケートで回答されています。



子どもの事故は、発達と事故の関係を知り、大人が少しの気配りをするだけで、未然に防げます。

事故を防ぐための話を聞いたり、リーフレットやパンフレットを読んで、子ども達に安全をプレゼントしてあげましょう。

# 子どもの発達と事故例





## 母親・両親学級用安全チェックリスト

(4か月児まで対応)

あなたは子どもの事故を防ぐために、次のことを行っていますか。または今後行いますか。

1. 赤ちゃんの事故は大人の気配りで大部分は防げる。	はい	いいえ
2. ベビー用品やおもちゃを購入するとき、デザイン性より安全性を重視する。	はい	いいえ
3. 部屋の中は安全を考えて整理整頓する。	はい	いいえ
4. 赤ちゃんの敷布団は硬めの物を準備する。	はい	いいえ
5. ベビーベッドの柵とマットレスの間にすき間はない。	はい (使用せず)	いいえ
6. チャイルドシートを準備する。	はい (車使用せず)	いいえ
7. 赤ちゃんを家に一人置いて外出しない。	はい	いいえ
8. 車の中に短時間でも赤ちゃんを一人で乗せておかない。	はい (車使用せず)	いいえ
9. 子どもの応急手当の方法を知っている。	はい	いいえ
10. かかりつけの病院や緊急時の連絡先がわかるようにしてある。	はい	いいえ
11. 赤ちゃんを抱いて歩くとき、自分の足元に注意する。	はい	いいえ
12. 赤ちゃんを抱いているとき、あわてて階段を降りない。	はい	いいえ
13. ドアを閉めるときは赤ちゃんの手の位置を確認する。	はい	いいえ
14. 赤ちゃんをクーハン (かご) に寝かせて持ち上げるときは、両方の取っ手をしっかり握る。	はい	いいえ
15. 寝ている赤ちゃんの上に、物が落ちてこないようにする。	はい	いいえ
16. 赤ちゃんは暖房の熱が直接触れないように寝かせる。	はい	いいえ
17. 母乳やミルクを飲ませた後はゲップをさせてから寝かせる。	はい	いいえ
18. テーブルなど家具のとがった角には、コーナークッションなどでガードをする。	はい	いいえ
19. 赤ちゃんのまわりにタバコや小物は置いておかない。	はい	いいえ
20. 入浴中の赤ちゃんから目を離さない。	はい	いいえ

いいえに○印がついたら、リーフレットを読んで子どもの事故を防ぐように心がけましょう。



## 母親・両親 学級用

子どもの事故はちょっとした気配りで防げます。  
事故を防ぐためのポイントをまとめてみました。

### 1. 赤ちゃんの事故は大人の気配りで大部分は防げます。

赤ちゃんは寝返りができるようになるとベビーベッドや高い所からの転落。物がつかめようになるとタバコや小物の誤飲。ハイハイやつかまり立ちをするようになると転落や熱い物を触つてのやけど。外遊びや外出をするようになると交通事故が起こりやすくなります。



事故を経験した保護者の80%以上が少しの気配りで防げることができたと回答しています。子どもの発達や行動パターンを理解し的確に対応すればほとんどの事故は防止可能です。

### 2. ベビー用品やおもちゃを購入する時、デザイン性より安全性を重視しましょう。

赤ちゃんが使うものはすべて安全の規格や基準にあっているとは限りません。Sマーク・SGマーク・STマークなど安全マークがついているものでも、使い方や使用月齢が違っていたり、赤ちゃんの体に合っていないと事故は起きます。使い方の表示や注意書きは大切で、説明書を良く読み、構造や品質に問題はないかを確認して使用しましょう。



ベビーベッド、子ども用の椅子、ベビーサークル、衣類などはデザインだけではなく、安全性や耐久性にも目を配りましょう。

### 3. 部屋の中は安全を考えて整理整頓しましょう。

タバコ・ボタン電池・クリップ・硬貨・指輪などの小物を床やテーブルに置いたままにすると、赤ちゃんは手を口に持って行きなんでも口の中に入れてようとするので危険です。赤ちゃんの口の大きさは最大32mmなので、これより小さなものは飲み込んでしまいます。



部屋の中の小物は整理整頓しておき、自宅だけではなく、実家やよその家に外出した時も注意しましょう。

### 4. 赤ちゃんの敷布団は硬めの物を準備しましょう。

敷布団は柔らかすぎると赤ちゃんの顔が埋まってしまい、鼻や口がふさがれてしまいます。また、ベッドの中や寝ている赤ちゃんの側にぬいぐるみやタオルなどが置いてあると寝返りをしたときに顔が埋まってしまいます。



敷布団は硬めの物を使用し、赤ちゃんはあおむけに寝かせ、うつぶせ寝にならないように気をつけましょう。布団は顔に深くかけすぎないようにしましょう。

### 5. ベビーベッドの柵とマットレスの間にすき間がないようにしましょう。

ベビーベッドの柵と敷布団の間に、赤ちゃんの頭が入るようなすき間があると、顔がはさまって動けなくなり、窒息する危険があります。ベビーベッドはベッドの柵と敷布団の間にすき間がないようにして使用しましょう。



すき間ができてしまう場合には使用をやめるか、タオルなどをはさみすき間をなくして使用しましょう。

### 6. チャイルドシートを準備しましょう。

生まれたばかりの赤ちゃんでも、抱きかかえて自動車に乗せるのは危険です。抱いていても車が衝突したり、急に止まると、乳幼児は腕から飛び出し衝撃をまともに受けてしまいます。たとえゆっくり走っていても衝撃のエネルギーは予想以上に大きく、大人の手の方では支えきれません。



車に乗せる時は年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用しましょう。購入時には耐久性や安全基準に合格したJISマークや運輸省の認定マークを目安に車種にあったものを選びましょう。

### 7. 赤ちゃんを家に一人置いて外出しない。

赤ちゃんが寝ている少しの間に、赤ちゃんだけを家に置いて買い物などに出かける人がみられます。出かける時は寝ている途中で起きてしまったり、寝返りやハイハイができるようになれば、家の中を動き回るのでいろいろな危険が待ち受けています。



また、火災や地震など災害の際にも一人では脱出できません。赤ちゃんは自分自身で身の安全を守ることができないので、大人が常に心がける必要があります。赤ちゃんを家に一人残して外出はしない。

### 8. 車の中に短時間でも赤ちゃんを一人で乗せておかない。

夏に赤ちゃんを自動車の中に寝かしたままにしていると、脱水を起こし、時には死亡事故につながる可能性があります。車内は日中短時間でも温度が驚くほど上昇し、40～50度になります。車から降りる時は必ず赤ちゃんも一緒に降ろしましょう。



### 9. 子どもの応急手当の方法を知っておきましょう。

子どもが事故にあった時必要なのは冷静な判断と適切なすばい応急手当です。的確な応急手当がなされたことで一命を取りとめたり、軽症ですんだりします。いざという時あわててパニックになってしまわないよう基礎的な知識と簡単な応急手当を覚えておきましょう。



### 10. かかりつけの病院や緊急時の連絡先がわかるようにしておきましょう。

事故が起こってしまった時あわてないためにも、かかりつけの医師や病院、緊急時の連絡先などはいつでもわかるようにメモをしておきます。また、母子健康手帳・保険証・診察券などはひとまとめにしていつでも持ち出せるようにしておきましょう。

